

第 5 3 回 神戸まつり
海上輸送の重要性をアピール

雲ひとつない快晴に恵まれた 5 月 1 7 日、神戸市民祭協会主催の「第 5 3 回神戸まつり」が開催され、海員組合関西地方支部もパレードに参加して海上輸送の重要性をアピールした。

今年のテーマ「広がる笑顔、神戸から！」のもと、会場には多彩なステージイベントや出店が並び、オープニングは神戸観光親善大使の 5 人が登壇し、金色のテープが打ち上がり、まつりの幕が開いた。

まつりのメインイベントである恒例の「おまつりパレード」は、今年は出発地点がフラワーロードから京町筋へと変わり、旧居留地エリア一帯がコースになり、6 9 団体の 5 4 0 0 人が音楽隊やサンバ、ダンスなど見ごたえのあるパレードを演出した。おまつりに魅入った約 7 0 万 7 6 0 0 人の観衆からは、大きな歓声が沸き上がり、大いに盛り上がった。

パレードで関西地方支部は、昨年同様「うみ・みなとの仲間たち」の一員として参加し、海洋少年団など海事関係者含めて約 1 0 0 人が隊列を組み「海にひらこうわれらの未来」の横断幕を掲げ行進し、船員や海事産業の重要性を広報した。

船をイメージした装飾車両の上では白い制服を身に着けた山崎諒ケイラインローローバクルクシップマネジメント株式会社職場委員が、沿道の観衆へにこやかな笑顔で手を振り、観衆から大きな声援が送られた。

また、行進中には「日本の暮らしは海上輸送によって支えられていること」や「神戸港が貿易港として発展し、街の文化や経済に大きな役割を果たしてきたこと」などが、アナウンスで紹介され、観客に向け海運と港湾の役割をわかりやすく伝え、海に囲まれた日本における船員・海員の重要性を広く発信した。

「海員だより」